

令和3年度第1回八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン懇談会

議事録

開催日時：令和3年8月3日（火）13：30～15：00

開催場所：スパティオ小淵沢1階コンベンションホール

出席者：委員17名（利根川昇会長、和田正生副会長、小林昭治委員、石川高明委員、飯田久美子委員、名取あゆみ委員、田口夕季委員、小林俊一委員、時田源夫委員、名取孝三委員、中山貴之委員、三井悦子委員、今井田紀子委員、白倉繁委員、細川強委員、小平雅彦委員、雨宮伊織委員）

欠席者：委員3名（小澤建二委員、藤原真史委員、牛山徳康委員）

傍聴人：2名

1 開会のことば（13：30）

事務局：本日は委員の皆様にはお忙しい中、会議に御出席いただき誠にありがとうございます。本日、会議の進行をさせていただきます。北杜市役所企画部企画課長の田中と申します。新型コロナウイルス感染防止の観点から、マスクの着用及び会議の時間を縮小した説明とさせていただきますので、御了承ください。本会議は北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱第3条に基づき、公開とさせていただきます。本日は、傍聴人が2名いらっしゃいますので、開会に際しまして入場していただいておりますので、御報告いたします。それではただ今より、令和3年度第1回八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催いたします。本日は小澤委員、藤原委員、牛山委員より欠席の連絡をいただいております。八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱第6条の規定に基づき、出席者が過半数を上回っておりますので、会議は成立いたします。

2 委嘱状の交付（13：32）

事務局：続きまして、令和3年度行政機関等の代表者の改選に伴いまして、新たに前任者の在任期間を務めていただく委員の方が5名おられますので委嘱状の交付を行います。なお、大変恐縮ではございますが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、委嘱状は既にお配りさせていただいております。

3 3市町村長あいさつ (13:46)

事務局：続きまして、3市町村長よりごあいさつをいただきたいと存じます。はじめに、

八ヶ岳定住自立圏の中心市であります北杜市の上村英司市長お願いいたします。

上村市長：皆様、こんにちは。本日は大変お忙しい中、皆様におかれましては、北杜市にお越しいただき誠にありがとうございます。日頃より、八ヶ岳定住自立圏の発展に対しまして、御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。さて、八ヶ岳定住自立圏は、平成27年度から始まりまして、「健康で生きがい発揮の圏域づくり」、「豊かな自然環境との調和の圏域づくり」、「交流と前進の圏域づくり」を柱に取り組んでいるところであり、縄文時代から井戸尻文化を共に育んだ、八ヶ岳の恩恵を受けたこの地域が、将来にわたって安心して暮らせるよう、生活機能の強化を図るため、「八ヶ岳圏域の定住人口の確保」と「地域の活性化」に取り組んでおり、これには3市町村の連携と協力が何より重要であると考えております。特に、八ヶ岳観光圏では、定住自立圏と相まって日本を代表する観光地として更に充実させるため、官民が連携して観光振興や移住定住の促進に取り組んでいるところであり、圏域への人の流れ、圏域内での交流を図っているところであります。また、平成30年には日本遺産に認定された「星降る中部高地の縄文世界」は、八ヶ岳周辺の縄文文化遺産を活用し、観光関係事業者や農業事業者等と連携したインバウンド誘致、観光振興を目指しているところであり、更なる交流人口増加による圏域の活性化を期待するところであります。コロナ禍ということもあり、人の流れが都市から地方に移っている中、自然豊かな地域で生活をしたいという人たちが地方に関心を示しているところでありますので、3市町村におきましてもこれをチャンスとして捉えまして、移住定住がさらに進んでいけばと思っているところであります。今後、圏域内の魅力がさらに高まるように3市町村が連携して取り組んでまいりたいと考えております。本日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、限られた時間での懇談会となりますが、八ヶ岳定住自立圏がますます発展するよう有意義な懇談会となりますことを御祈念申し上げ、御挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願い申し上げます。

事務局：続きまして、富士見町の植松佳光副町長お願いいたします。

植松副町長：皆様、こんにちは。本日は町長の名取は所用がございまして、代理で参りました。どうぞよろしくお願いいたします。平成27年の定住自立圏の協定締結後、6年が経過、それに先行する形で八ヶ岳観光圏の認定を受けましたのが平成22年

でございましたので、11年目となり、この3市町村の枠組みは長い歴史を積み重ねてまいりました。これもひとえに中心市の北杜市さんのリーダーシップの強さ、また観光圏では八ヶ岳ツーリズムマネジメントさんのいろんな企画や事業の実施の恩恵であると考えております。また、北杜市長さんのお話にもありましたが、日本遺産として範囲も少し広くなりましたが、北杜市さん、原村さん、また私共富士見町を含めた地域の結びつきの強さというものが年々と強くなっていると感じております。圏域からの人口流出を食い止め、圏域への人の流れを創出するというようなことが定住自立圏の大きな目標でありますけども、このコロナで実際社会は非常に打撃を受けておりますが、次の局面がどのようなようになるかと考えてみますと、やはりこの位置であれば東京を中心とした首都圏の皆様がその周囲へ生活の基盤を移す、企業の生産や企業活動の拠点を移すというようなことが当然の考え方の前提になるような時代が訪れるのではないかと感じているところであります。行政の枠組みだけではなくて、本日お越しになっておられます民間の機関・団体の皆様共々今後その受け皿というものをこの地域で用意していくということを考えていくべきではないかと強く感じております。今後とも是非よろしく願いいたします。

事務局：続きまして、原村の宮坂道彦副村長お願いいたします。

宮坂副村長：皆様、こんにちは。原村の五味村長ではありますけども、本日別の所用がございまして出席できませんでした。ただいまご紹介いただきました副村長の宮坂と申します。五味村長よりメッセージを預かりましたので、一言御挨拶を申し上げますのでよろしくお願い致します。本日は、八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン懇談会に皆様方には大変お忙しいところをお集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、皆様には日ごろからそれぞれの立場で地域振興に御尽力いただいておりますことをこの場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。北杜市さんを中心として富士見町さんと原村は相互に役割分担し、連携に協力することにより八ヶ岳西南部を全体として必要な生活機能等を確保する定住自立圏構想を推進し、地域圏における定住の受け皿を形成するため、山梨県と長野県をまたいだ八ヶ岳定住自立圏構想は人口減少、少子高齢化、地域経済の低迷など様々な課題を解決するために施策として十分機能しているものと確信しております。最近テレビを見ても移住関連の特集など北杜市さんの話題を多く目にする機会もあり、また、富士見町さんにおいても地元新聞に移住関連の記事を目にすることが多くありま

す。いずれにいたしましても、協定の締結をしました3市町村それぞれ規模の違いはありますが、様々な課題解決に向け、日々検討しているところであります。3市町村の取組も単に役所内で検討していても狭い視野での検討となるため、今回は幅広い分野、知見をお持ちの方にお集まりいただいておりますので忌憚のない御意見を頂戴できればよいと考えますので、今後ともより一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げまして簡単ではございますけれども私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。原村長五味武雄代読であります。どうぞよろしく願いいたします。

4 会長あいさつ (13 : 58)

事務局：続きまして、利根川昇会長よりごあいさつをいただきたいと存じます。

利根川会長：ご苦労様でございます。この会議のお話をいただいたときに思い出したのが、昨年のちょうど今頃ここで懇談会を行ったことであります。内容的には正直な話、なにを言っているだつて言われそうですけれども、忘れたところはたくさんございます。よく皆様お聞きいただきたいと思えます。いずれにしましても、配布された資料の中にあるとおり計画して実践して評価して見直しして、そして皆様の御意見をその都度いただいて、また新たに取り組むと、要はそういう会議でございます。先程来より上村市長をはじめ、町村長の方々のお話をいただいておりますので、私が今更申し上げることもないわけですが、私は4年目になるわけですが、実は富士見町さん原村さんの首長からあいさつをいただいたのは今回が初めてであります。そういう点でまた新たな方向性ができてくれば本当にうれしいと感じております。そんなところであいさつとさせていただきますが、いずれ御意見をいただいて事務局がまとめて北杜市の議会にかけることになるかと伺っております。そんな意味で決議するということは言い過ぎかもしれませんが、いろんなことを伺いながら御意見いただければよいと思えます。よろしく願いいたします。ありがとうございます。

5 議事録署名人選出 (13 : 59)

事務局：北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱第9条の規定により、議事録署名人2名を選出いたします。選出方法は委員名簿の順でお願いしておりますので、今回は飯田久美子委員と名取あゆみ委員にお願いいたします。

6 議題 (14:00)

(1) ハヶ岳定住自立圏共生ビジョンの変更について及び(2)進捗管理について、事務局より説明。

<質疑応答>

小林昭治委員：コロナ禍でKPIが変わることは致し方ないが、その変更はどのような形になっているのか。当然、最終目標も変わってくるものと思われ、そちらの方もどのような形になっているのか。

事務局：第2次共生ビジョンを作成するにあたり、令和元年度の実績をもとにKPIを設定したもので、この時点ではコロナの影響は鑑みていない。しかしながら令和2、3年度になり事業を進めても設定した目標を達成することが難しくなってきたが、第2次が始まったばかりということもありKPIを時点修正することは、今は考えていない。今後、事業担当課とヒアリングを行う中でこういったことが課題ということであれば、KPIを変更して取り組むことが必要かどうかを確認していきたいと考えている。

小林昭治委員：来年度以降のKPIは変わるという認識でよいか。

事務局：KPIは事業担当課が設定した目標値であり、そこを目指していただきたいが、ヒアリングを行う中で下方修正しなければならないことを含め、懇談会の場で説明したい。

小林昭治委員：お聞きしたかったことは、KPIが変わらないということであれば、来年度のKPIは今年減っているのであげなければ合わないと思う。最終のKPIをどのようにするのか、当初設定したKPIを達成していくことになると思うが当然KGIが変わってくる、その辺の考え方は。どうしても決めたことを今後行っていくことは厳しいと思われる。最終のKPIをどのようにするのか教えていただきたい。

事務局：この計画は5年間で、最終の目標が令和6年度となっている。令和6年度にKPIを達成するという事で各事業を進めている。従って、新型コロナウイルス感染症の関係で結果がついてないことは事実であるが、ウィズコロナ、アフターコロナの令和6年度に目標を達成できることを目指しているということ御理解いただきたい。

小林昭治委員：目標値があってそれに対して途中の通過がどうなっているかというこ

とがK P Iであって、最終にK P Iがあるということが理解できない。最終6年度は最終到達地点であると思うので、その件に関して毎年のK P Iが、通過点がそれに向けてこうなっていますよということで、ただそこだけを知りたい。そのK P Iはあくまでも目標値に向けた、単年度に向けてのK P Iなのか、K G Iがあってその中で通常はK P Iを求めているが、その辺の理解を教えていただきたい。

事務局：K G Iは最終目標値ということでよいか。いずれにしてもこの計画自体がK P Iだけを設けている。令和6年度を目指しているという考え方の中で、その途中において達成できた年、達成できなかった年が当然出てくるもの。先程来の説明のとおり、どうしても難しいという判断ができた場合、ヒアリングにおいてK G Iいわゆる最終目標値、K P Iについても変更することもあるかもしれない。いずれにしても、この懇談会で諮った中で決めていくという形になる。

白倉繁委員：資料は分かりやすくなっているが、コロナの問題でできないものはできないで、ゴールを変えてもよいのではないか。ただ、ここでK P Iを記載するとそのために進めなければならない。例えば、14ページの八ヶ岳観光圏支援事業の宿泊者数、外国人宿泊者数を検証するということで年々増えている。3市町村が頑張っても外国人が来られないため、K P I、K G Iを変えてしまっていないか。逆に、K P I、K G Iを達成するために外国人をどう呼び込むのかが記載されていれば、それに向けて取り組んでいけばよい。富士見町の事業のように廃止してもよいのではないか。このままだと、今年もコロナでできなかったということになるのでは。

事務局：先程の質問と関連するが、御指摘のとおりできないものはできないということも必要であると思っている。事務局としては、最終的に令和6年度に達成するために、ある程度一定の目標を立てていくということが大事であると思っている。そうした中、先程来の説明のとおり、K P Iは割り戻しをした形で設定しているため、当然ながら右肩上がりになっている。このコロナの状況の中で現実的なのかという御指摘もあるかと思う。令和3年度のコロナの状況がここまで進むとは想定していなかった。来年度も状況がどうなるかはわからないが、最終的には令和6年度に目標を達成するという考えには変わりはない。現実と乖離しているという御指摘もあるが、本年度はこの目標値を設定したいと考えている。

白倉繁委員：K P Iを設定していて中止することがないようお願いしたいし、事業を行っていただき検証していただきたい。

小林昭治委員：先程インバウンドの施策で何をしているかということですが、アフターコロナでワクチンが日本は海外より遅れているということがあって、今3市町村において我々が中心となってアドベンチャーツーリズム事業を欧米豪の富裕層向けのものをつくっている。コロナが回復した時に打つのではなく、今のうちから用意しておいてこれだけについてはインバウンドを誘致する、八ヶ岳観光圏のツーリズムマネジメントが中心となって今打っている。行政もそれらを認識したうえで目標値を設定していると考えている。

田口夕季委員：11ページの子育て支援について伺いたい。原村で外遊びの支援を行っているが、コロナ禍でイベントができない状況が続いている。この4月から試験的に未就園児も対象に外遊びの活動を始めた。富士見町から親子で遊びに来た方に「富士見の子育て支援はどうですか」と尋ねたところ、子育てサロンが事前予約制ということで、2歳児の子供を事前予約して遊びに行くことが難しいということと、体調を崩したりぐずったりすることもあるので使いにくいという話を伺った。電話やメール等を活用して相談を実施しているとあるが、親御さんの相談だけでなく子供たちの活動を支援してもらいたい。メールで対応しているからいいということでもないと思う。子育てサロンの利用者数を検証することになっているが、できれば屋内での子育てサロンに限るのではなく、内容に関する変更というか、外での遊びを利用するといった、子供たちがのびのび遊べる内容に変更することが考えられないか。

北杜市ほくとっこ元気課長：つどいの広場では、市外の利用者は予約をとっていない。利用客からすると確かに人数制限がされているため利用できないとの話を聞いている。その中で外遊びできる場所はあるが、日中は熱いということもあり、屋内で受け入れをするため限られた人数しか受け入れできていない。事業の内容に外遊びを取り入れること、人数を増やすこと自体については、この場では回答できない。保健センターの公園は遊具があつたり散歩ができたりするので行く場所にもよると思われる。どこに行くかにもよるが、場所によっては外遊びができると思う。事業を受け入れる中に外遊びを含めることはここでは回答ができないが、そのことについてはつどいの広場で事業を行っている先生たちに聞いてみたいと思っている。

田口夕季委員：検討していただけるとありがたい。

飯田久美子委員：私自身2歳児の子をいろんな遊び場に連れていくが、主に北杜市と韮

崎市にある「にらちび」に行くが、あまりに中身の違いに衝撃を受けている。「にらちび」はコロナ前と同じかかわり方や当日予約の結構な人数が利用できるようになっている。北杜市は1年前コロナが始まって施設を休業したときと同じようなまま来てしまっているような感じで閉鎖的な感じを受けている。富士見町や原村にも同じような場所があつてこういった定住自立圏があるので、支援者の交流というか情報交換というものがとられたら、違った施設運営、遊び場になっていくのではないかと考えるがいかがか。同じ施設で支援していると他のところでどのように支援しているかが見えてこないし、いつも決まりきったやり方が続いていくだけだと思う。他の市がどのような支援を行っているか見に行く機会があつてもいいし、今はオンラインで情報交換ができるので、「今どうやっていますか」、「親子の状態はどうですか」、「こんな支援をすれば親子の反応がよかったですよ」とかそんな情報交換ができれば、「こんなことをやってみよう」、「あんなことをやってみよう」といったコロナ禍でもできることが施設ごとに増えてくるのではないかと考えるがいかがか。

北杜市はくまもと元気課長：おっしゃるとおり、3市町村の施設の先生たちの交流は大事であると考えている。それについては、情報交換をしてそれぞれ施設の規模や人員に違いはあるが、取組ができるものとか参考にできるものがあると思うので、持ち帰って協議や情報交換できるようなことを考えてみたい。

名取あゆみ委員：富士見町で子育て広場の運営をしているが、いまの意見を伺って資料を見たときに、せっかく3市町村の連携がうたわれているにもかかわらず、コロナ禍で現場も厳しい状況にあつた。この時、情報収集もなかなか難しく、近隣というよりは遠方の県に問い合わせたり、逆に問い合わせがあつたり、とにかく模索する中でいろいろな対策を講じて今に至っている。産まれたばかりの新生児から妊婦さん、2歳3歳のお子さんが来るので一律の支援は難しいが、せっかく3市町村の取組をうたっているので実際何ができたのか現場感覚として反省しているところ。私自身も持ち帰って検討したい。

(3) その他について、事務局より説明。

< 質疑応答 >

特段なし。

7 閉会のことば (14:56)

和田副会長：皆様の御協力によりまして、大変有意義な会議となりました。コロナ禍で、人流が制限される中での事業進捗には大変ご苦労されると思いますが、やはりここは定住自立圏の目標、目的を達成するためにどうか御尽力いただけますようご祈念申し上げます。以上を持ちまして、第1回八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン懇談会を閉会いたします。大変お疲れ様でした。